

Case 35-2008: A 65-Year-Old Man with Confusion and Memory Loss

(New England Journal of Medicine 2008; 359: 2155-64)

【Problem List】

#1. 神経症状：見当識障害（記憶障害）

- 初診 1 ヶ月前に初発し、徐々に進行した見当識障害。
- 特徴的な所見として：注意力、実行・命名能力、意味的知識などは比較的正常でありながら、新規の学習・記憶能力（記銘力）のみが傷害されており、順行性健忘の症状と非常に良く合致する。→順行性健忘が見当識障害の中核と見なしうる。
- PTR 亢進がみられるが、他の腱反射は正常である。
- アルツハイマー病家族歴(+).

#2. 髄液異常

- 白血球：初期では単球からなる上昇がみられたが、転院後の検査ではリンパ球増加が顕著となった。
- 蛋白：軽度上昇。
- 微生物・ウイルス・梅毒検査：全て正常。

#3. 脳 MRI 異常信号：両側側頭葉内側部・前脳基底部・島の異常高信号

- 扁桃体、海馬、海馬傍回、島皮質下、前頭葉下部（左優位）を含む。これらの異常は造影されない。
- 患者の健忘は、本異常信号と関連があることが強く示唆される。

#4. 胸部 CT 異常：前縦隔腫瘍

- 前縦隔に 4.1cm x 2.0cm の腫瘤。胸腺腫、奇形腫、リンパ腫などが鑑別に挙げられる。

#5. 陰嚢水腫

- エコー上発見された右陰嚢水腫。
- 陰嚢水腫は、精巣下降のときに腹膜鞘状突起の末梢が袋状に残ったものであり、乳児によく見られるが、95% は 1 歳までに消失する。

◆薬物メモ

- アシクロビル：抗ウイルス薬→ゾビラックス®
- チアミン：Vitamin B1
- ドネペジル：抗アルツハイマー薬。塩酸ドネペジル→アリセプト®
- ロラゼパム：中時間作用型ベンゾジアゼピン系抗不安薬。→ワイパックス®